



NHK大河ドラマ

戦国大名「里見氏」



放映の実現を求め、ご署名のお願い

・里見氏の歴史

里見氏は、清和天皇から始まる源氏の新田氏一族から分家し、里見氏の祖は、里見義俊で上野国碓氷群里見郷（群馬県高崎市）を拠点に長い間活動していました。

そして、里見一族が全国各地に広がり、里見義実が安房白浜に渡ったことが、房総里見氏の始まりです。

その後、上総国や安房国の覇権をめぐって戦国乱世をくぐり抜け、第6代義堯は、子息義弘とともに里見氏の全盛期を築きあげました。

第9代義康の時代、関ヶ原の戦いでは徳川方にあつて下野宇都宮に出陣し、常陸国鹿島郡（茨城県）3万石を加増され、安房と合わせて12万石の大名となり、関東では、最大の外様大名に成長していきました。

また、義実の時代から里見氏は、里見水軍として東京湾の制海権で争っていました。

義康の死後、第10代忠義の代で徳川幕府の重臣・大久保忠隣の子孫を室に迎えたが、忠隣の失脚で伯耆国（鳥取県倉吉市）に配流され、これにより里見氏の歴史は終わりました。

・ご署名のお願い・

日本国内はもとより、世界中で愛読される曲亭（滝沢）馬琴の「南総里見八犬伝」。しかし、そのモデルとなった戦国時代から江戸時代にかけて戦乱を駆け抜けた戦国大名「里見氏」の正史は、今までマスコミの舞台に一度も登場したことがありません。

人心が荒廃し人道地に堕ちた現代の日本。今だからこそ馬琴の言わんとした「仁義礼智忠信孝悌」の里見スピリッツが必要ではないでしょうか。

日本人の失いかけた美しい心を取り戻し、豊かな人間社会の再構築を願い立ち上がりました。

平成26年（2014年）には、曲亭馬琴の「南総里見八犬伝」刊行200年、里見氏終焉400年を迎えます。

儒教道徳を政治規範としていた里見氏を誇りとして、その熱い想いを広く海外・全国に発信するとともに里見氏の正史の顕彰を目指すため、NHK大河ドラマの放映の実現に、海外・全国の皆様からご署名をいただきたいと願っています。

蘇る



手づくり甲冑

里見氏が
大河ドラマで

